



知っていますか？ C型肝炎は9割治ります。 さらに、飲み薬だけでも 治る時代が来ました。

C型肝炎の治療はウイルスが発見された1989年以降目まぐるしく進歩しています。日本では1992年に認可されたインターフェロン注射で患者さんの1割弱が治るようになり、2000年に飲み薬の抗ウイルス薬リバビリンの併用療法が始まって治療率は約3割になりました。その後は週一回の皮下注射で済むペグインターフェロンが2004年に導入され、飲

み薬のリバビリンとの併用療法の効果は5割前後まで改善しました。

2011年、ウイルスが増えるための酵素の働きを直接特異的に邪魔するプロテアーゼ阻害剤が初めて認可され、2013年には副作用の少ない改良型プロテアーゼ阻害薬のシメプレビルが認可されました。インターフェロン注射と2種類の飲み薬を併用するこの3剤併用治療で何と治る率が9割になったのです。

このように、これまでC型肝炎の治療の中心はインターフェロンという注射でした。インターフェロン治療は始まってから20年が経過し、これ

によってたくさん
のC型肝炎患者さん
のC型肝炎患者さん
からウイルスが排除
されてきました。

実際に、C型

慢性肝炎がその

原因の8割を占める原発性肝細胞がんで亡くなる患者さんも、年間3万5千人から年間3万人にまで減少し始めました。しかし、これだけ治療が進歩した一方で、全国で150〜200万人と推定されるC型肝炎患者のうち、3分の2もの患者さんが適切な治療を受けていないことが大きな問題となっています。3分の1の人は、自分がC型肝炎ウイルスに感染しているこ

とに気づいていないと推測されています。

一生に一度はC型肝炎ウイルスの検査を受けて、陽性の場合は無症状でも肝機能の数値（ALT値）が正常であつても専門医療機関に受診することが重要です。また、10年以上前にかかりつけ医で、あるいは砺波総合病院を含めた専門病院で治療を受ける必要がないといわれた方でも、もう一度かかりつけ医の先生と相談の上、治療する必要があるか再評価を総合病院で受けることをお勧めします。特に2000年以前のインターフェロン治療では治療効果が低かったこともあり、高齢者、肝機能が正常な人には治療をしないことも多かったのです。

とはいえ、インターフェロンという注射には「つらい治療、副作用も多い、若くないと無理」というイメージがあります。倦怠感、貧血、皮疹などの副作用で治療が途中で中止になることもあります。また、インターフェロンでは治療できなかった患者さんもあります。

そのような患者さんを対象とした、飲み薬だけの治療が今年から認可されました。これはタクラタスビルとアスナプレビルというC型肝炎ウイルスのタンパク質の働きを別々に阻害する2種類の飲み薬を1日2回、24週間飲む治療で、やはり9割近くの人で治療が見込めます。副作用としては、1割程

度の方で風邪症状と肝炎の悪化を認めますが、慎重に経過を見ながら治療を受ければ高齢、肝硬変の人でも安全に治療を受けることができます。現時点では医療費の助成などで制限もありますので、かかりつけ医の先生や当院の肝炎相談室に相談いただいた上、受診してください。



病院敷地内禁煙を お願いします

病院には気管支ぜんそく、慢性閉塞性肺疾患（COPD）、妊婦、赤ちゃんを抱いたお母さんも通っています。

～あなたならきっとできる～

★禁煙開始方法

思い立ったら吉日、いまから禁煙！

市立砺波総合病院 禁煙対策委員会

感染性胃腸炎・季節性 インフルエンザにご注意 ください

これからの季節、感染性胃腸炎や季節性インフルエンザの流行期になります。次のことにご留意ください。

- ▶手をよく洗う。
- ▶せきが出る時はマスクを着用する。
- ▶外から帰った時うがいをする。など

ひとりひとりが「感染を持ち込まない！広めない！持ち帰らない！」感染対策を行いましょう。